

Biz Life Style

[ビズスタ東京]

2017 05

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都・滋賀、仙台、福岡、広島にて62万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作 / 株式会社ディリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
© 2017 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



「AMG」は、東京を選んだ。

今年1月、世田谷に誕生した世界初の専売拠点
噂の「Mercedes-AMG」ショールームを訪問

My Favorite Life Style



足を踏み入れるだけで鼓動が速くなる、圧倒的な世界観。

Mercedes-AMGのみを扱う、世界初の専売拠点。

「アムグ」から「コースト」へ
テーマパークさながらの空間演出

建物は2階建てで、総床面積は実に1,000㎡に及ぶ。入り口で感じたサブリミナルはまだ序の口というところだ。気を落ち着かせたら、周囲をよく眺めてみよう。レースファンの憧れである「ピットレーン」や「パドック」のような空間が広がっているのだ。ただでさえ重厚なAMGが、今にも咆哮しそうな緊張感。その場で少し待てば、やがてメカニックに囲まれたレーシングスーツ姿のドライバーが現れるのではないかと思えてくるほどの臨場感が凄い。車が好きならこの心地よく張りつめた空気に惹きつけられない人はいないだろう。

軽く鼓動を踊らせながら、2階へ。少し慣れたと思ったら、1階と同様に、入り口で立ちすくんでしまった。こぼれは、サーキットそのものが再現されているのだ。目の前には見慣れた赤白の縁石が並び、タイヤ痕のようなものも見える。足もとに目を落とすと、何とアスファルト舗装されているではないか。その中に超然と佇むAMGは、浴び込みの過激な「1階」レースカーがと見紛うほど。リアクションの夢そのまま描いた空間づくりに



上の「世界初」の文字を見て、「いや、これまでもあったはずだが」と訝しく思う方もいるだろう。メルセデスAMGは、確かに全国のメルセデスAMG正規販売店として、メルセデスAMGだけを扱う専売拠点で、これは真正正銘、世界初。今までなかったことが意外に思えるかもしれないが、その「1階」はコアな自動車ファンたちの鋭敏な反応からもうかがえる。

もちろん、自動車専門誌や専門サイトなどでも大々的に取り上げられ、今年最初のビッグニュースのひとつとなったことは、記憶にも新しい。あれから3か月ほどが経過したが、すでに自動車ファンの聖地のひとつとして化している話題のランドマーク。駆け足となるが、今回はその店内を少し歩いてみよう。

「アムグ」の展示車がAMG「1階」目の前に広がる未体験の光景

昨年、メルセデスAMGは5600台を超える販売台数を記録した。これは、日本国内での実績としては過去最高のものだという。AMG東京世田谷のグラントオープンはこの素晴らしい業績を祝うようベストタイミングとなった。

同店を運営するのは、メルセデスAMG正規ディーラーのジョナサン世田谷だ。現在、各地に計5拠点を展開しており、これまで5度にわたって最優秀販売店賞に輝くという実力派。何しろ、世界初の販売形態が正式に許可されるのだから顧客だけでなくメーカーサイドからも絶大な信頼を受けていることがありと分かる。

今回のオープンに際しては、鮮烈な予告映像で注目を浴びたメルセデスAMG「1階」の日本初お披露目というイベントも、国内での導入時期は未定というは残念だったが、代わりに「メルセデスAMG」の北コースで新記録を更新したばかりという噂のエンジンパワーを披露。ファン歓喜の爆音パフォーマンスのほか、メルセデスAMGのCEOを務めるトリアス・アマース氏も登壇し、大成功の発表会となった。

このように、同店は今後、メルセデスAMGの情報発信も担っていくことになる。新モデルや限定車などもアマース氏に当たることへのベーマスは店頭に出かけてみよう。シールドとは言え、口頭は忘れていない高層感に包まれる場所。訪問前は、みくも眠ることをお勧めしたい。

「アムグ」は「コースト」と言われても信じるはずだ。「世界観を創る」とは、驚嘆の一言を言うのだから、いちいち足が止まってしまう。エグゾーストを筆頭に、レーシングカーやヘルメットなど、メルセデスAMGヘトロナスモータースポーツに関連する展示物もズラリ。モータースポーツの舞台での活動紹介なども盛り、たっぴりと愉しめる。

お目当ての実車は、実にも台を数える。これは、国内では最大の展示台数となるそうだ。また、肝心の購入については、さすがに専売拠点の貴族・AMGコレクションアイテムの限定販売と先行販売に加入し、サーフェイス面で希望に合わせて仕様が仕入れられるカスタマイズプログラムまで導入されている。これも日本では初の試みで、ボディカラーやシートカラーなどをオーダーメイドできる仕組みだ。

今後は、メルセデスAMGの最新情報が集積する重要拠点に

AMG東京世田谷は、瀬田交差点から田園調布方面に向かい、環状8号線を走ると見えてくる。東急大井町線の「上野毛」駅からも徒歩5分ほどなので、目田が丘や「三軒川」でのシビレ感から出かけるにも便利な立地だ。外観はドイツ本国のメルセデスAMG本社社に似ているデザインとなっており、実に重厚。周辺環境を見渡しても、やはりそのプレミアム感は隠しようがないという趣だ。

期待感を煽られながらエントランスに入ると、その途端に、自動車ファンなら絶句するだろう。「1階」も展示されている車が「アムグ」なだけだ。そのためのシールドなら当然だが、それでもこんな光景を目にできるのは特別なイベントの会場くらいのもので、頭では分かっていても、目に飛び込んできると光景は、やはり圧巻としか言いようがない。



AMGコレクションアイテムも豊富にそろえてある。



もちろんインテリアも車によって多彩だ。



AMGのエグゾースト音が体感できるサウンドカウンター。腹の底まで伝わるAMG音を聞いてほしい。

広さだけでなく空間演出がまた凄い。AMG東京世田谷の店内。サーキットさながらの空気感に目を奪われるが、興奮が一段落したら、店内を隅々まで歩いてみよう。AMGメルセデスの実車が多数常設されている(1)ことに加えて、車両の内装のイメージを視覚的に確認できるデジタルサイネージの導入など、購入前の商談の場としてのクオリティの高さもしっかり確認したい。

床はアスファルトで舗装されている。スターティンググリッドだけでなく、タイヤ痕にも是非注目してほしい。



設立50周年の新機軸に 東京が選ばれた喜び



試乗車も用意してあるので、まずは全身で堪能してほしい

さて、ここではメルセデスAMGの基礎知識について、軽くおさらいしておこう。AMG社は、レース用自動車エンジンの設計会社として、1967年に誕生した。つまり、今年でちょうど設立50周年ということになるわけだ。社名は、創業した2人のエンジン開発者、ハンスウエルナー・アウフレヒト及びエアハルトメルヒャー両氏の頭文字、そしてアウフレヒトの故郷であるグロースバハハの「G」に由来する。

彼らのエンジンは、わずか4年で世界のモータースポーツ界の頂点に立つ。1971年、スパフランコルシャン24時間レースに初参戦した「AMGメルセデス300SEL68」がクラス優勝、総合2位を獲得。重量的に不利なセダンが本職のレースカーを攻略してしまったのだから、評判は一気に世界へと広まった。その後も数々のレースに参戦しているが、中でもDTM(ドイツ・ツーリングカー選手権)では「常勝チーム」として賞賛を浴びた。

メルセデス・ベンツ社と正式に提携契約を交わしたのは、1990年のことだ。両者の緊密な協力によって、安全性や快適性、信頼性といった

メルセデスの価値はそのままに、レースで証明してきたAMGのエンジン開発技術が高次元で融合し、瞬く間にトップパフォーマンスブランドへと駆け上がった。当時、日本でも突然のようにブームが沸き起ったので、あの熱気をご記憶の方も多いだろう。

もともとエンジニアが起業したブランドだけに、エンジン製造には独特の哲学を有する。創業当時から伝統として、ひとりの職人が基のエンジンを最初から組み上げるハンドメイドスタイルを頑なに保持。エンジン上部のプレイトに刻まれた担当エンジニアのサインは、オーナーにとって「本物を所有する証」としての大きな意味を持つのだ。

半世紀を経て、実車を堪能できる専売拠点を開設したメルセデスAMG。「AMG東京世田谷」に展示された実車たちを気が済むまで比較検討できること自体が、世界中のファンにとって特別な出来事なのだ。セダンにクーペ、カプリオレ、SUVやロードスター...と、今やラインナップも豊富に揃う。まずは、世界観ごと体験できる場として東京が選ばれた喜びを噛みしめたい。

ビズスタ特典



AMGオリジナルグラス プレゼント

ご来店の上、「ビズスタを見た」とスタッフにお伝えいただいた方限定で、「AMGオリジナルグラス」を1個プレゼントします。

※数に限りがございます。なくなり次第終了とさせていただきます。ご了承ください。

AMG 東京世田谷 東京都世田谷区上野毛4-36-8

TEL.03-5758-2511

営業時間/9:30~19:00 水曜定休

www.amg-tokyosetagaya.jp

